

The background is a light gray gradient. It is decorated with numerous realistic water droplets of various sizes, some with highlights and shadows, scattered across the frame. In the upper center, there is a faint, circular logo or watermark that appears to contain a stylized 'V' or similar symbol.

WEB広告収入について

目次

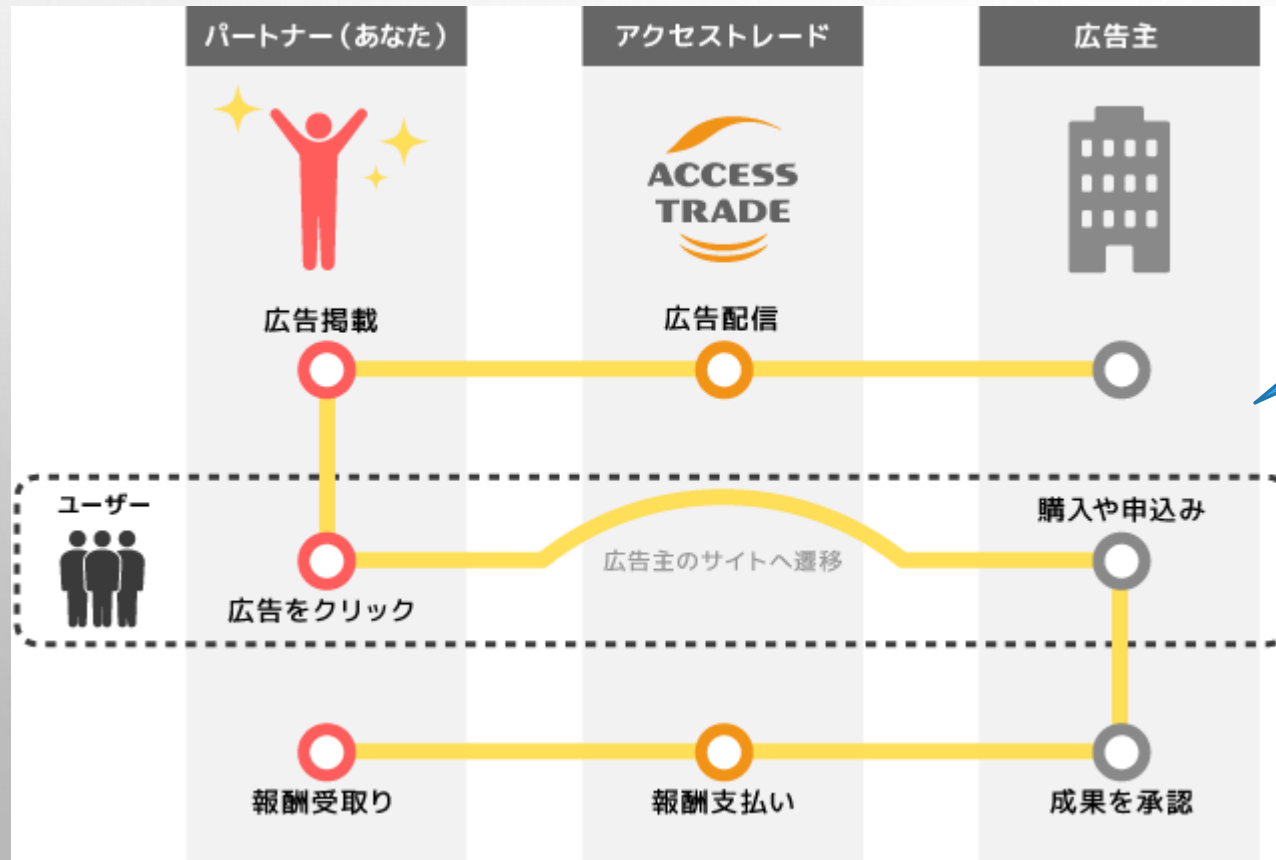
1. 広告収入とはなんぞや
2. 広告収入の仕組み
3. WEB広告収入の種類
 1. バナー
 2. 動画広告
4. WEB上の広告収入の歴史
5. 広告ブロックアプリとの闘い
6. ウィルス混入広告
7. 今後の広告収入の流れ

広告収入とはなんぞや

- 企業が提供している広告をWEBサイトなどに載せることで、その広告サイトへ誘導し、商品の購入などが発生した場合に取得できる報酬のこと。
- 広告は企業側が、広告を作成している企業に依頼を出して広告を作成、その広告を個人のブログや動画などに載せて宣伝を行う。

広告収入の仕組み

- 広告収入とはなんぞやでも書いた通り、広告を出したい企業が、広告代理店に依頼を出し、代理店で作成された広告を個人のブログなどに記載する。代理店は企業から報酬を受け取り、ブロガーは広告のビュー数、購入数によって報酬が決まる。



図にすると
こんな感じ

最近だと、Googleの検索結果ページの上部にクリック数に応じて報酬を支払う制度も存在する(アドセントとか言う奴)。この場合は代理店を挟まない。

WEB広告収入の種類

- 例1...バナー広告

- 商品の簡単な紹介を書いた長方形上のものが一般的。クリックすることで詳しい紹介などが記載されたリンク先へ移動する。



縦長もある

皆、買ってね！

WEB広告収入の種類

- 例2…動画広告

- YOUTUBEなどで動画を再生する前、または最後に表示される動画形式の広告。
- 画像取れなかったから割愛

広告収入の歴史

- 1996年7月頃、カクテルパーティーでAMAZONの創業者が、ある女性に「自サイトで離婚に関する本を売りたい」と持ちかけられたのをヒントにしたのがはじまりであるという説とCYBEREROTICSというアダルトサイトがクリック報酬型のアフィリエイトを始めたのが最初か初期のサイトの1つだという説がある。(WIKIより)
- 2011年時点で、日本のアフェリエイト市場は1000億円を超え、毎年10%程ずつ成長している。
- 現在の主流は、スマートフォンの普及により、アプリからクリックでWEBページへと移動するタイプの広告が多い。
- WEBページ側でも、JQUERY等の普及によりスクロール後もついてまわる広告が簡単に作成できるようになり、収入を優先しているサイトはそういった仕掛けを使うことが多い。

広告ブロックアプリとの闘い

- WEB閲覧時に読み込みスピードが遅い原因の一つとして大量の広告が上げられる。また、移動型の広告は記事を読むのに邪魔となる場合が多々ある。その鬱陶しさを消し去るのに畳用されるのが「広告ブロック」アプリとなる。
- 現在でも多数の種類が出ており、最も有名なのは「ADBLOCK」。様々なブラウザのアドオンとしてもブラウザの公式アドオンサイトからダウンロードが可能となっている。
- 広告ブロックアプリをより強力にするために、日本向けの広告フィルタ「豆腐フィルタ」など、特定地域に特化した広告ブロック用フィルタも存在する。
- ただ、多くの広告を表示しなくするため、広告主としてはあまりいい気持ちにならないアプリであることは確かである。
- GOOGLEのPLAY STOREからは広告ブロックアプリは全て削除されており、先日、サムスンが自社ブラウザ向けの広告ブロックアプリをリリースしたが、翌日にはPLAY SOTREから削除されてしまった。

ウィルス混入広告

- 全ての広告が、安全で有益な広告というわけではない。中には強力なマルウェアが含まれた危険な広告も存在している。
- 2015年9月にトレンドマイクロが発表したが、正規サイトの一部の広告が改ざんされ、日本から900万件近いアクセスがその広告を通じて悪意のあるサイトへ自動転送されていた。
- 顕著に改ざんが見られたのは、まとめサイト、アダルトサイト、ニュースサイト、オンラインゲーム、動画サイト等様々なサイトが狙われ、知らない内に改ざんが行われていた。
- ココ最近で猛威を振るっているのはランサムウェアと呼ばれる、料金を支払わせることでウィルスの症状を差し止めるマルウェア。
- 2015年11月にマカフィーが発表した報告によると、全世界での被害総額は400億円近い。

今後の広告収入の流れ

- 現在の悪質な広告の選別は人力で行われており、例えばGOOGLEだと、アドセントに表示される悪質な広告削除のために1000人以上の人員を投入している。
- 今後はアルゴリズムが作成され、一定パターンの悪質広告は自動で削除されるようになると思われるが、そういった広告は様々な方法で掻い潜って来るだろうから人力での広告削除はまだ続いていくと思われる。
- また、コンテンツとしてHMD向けの広告が増えてくると思う。VR向けの広告かつ視覚に訴えてくる表示方法になるため、臨場感の溢れる広告が出てくると思うが、表示方法によってはポリゴンショックの再来も予想されるため、そのあたりの規制を考えないとイケない。